

報告事項2

第3委員会報告資料

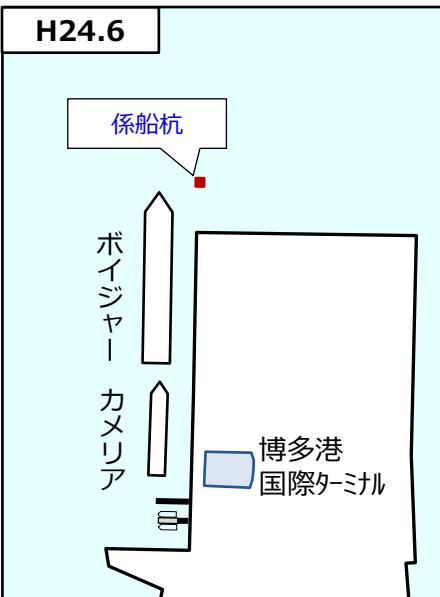
クルーズ受入機能の強化について

平成29年6月

港湾空港局

クルーズ受入機能の強化について

1.現在の取組み



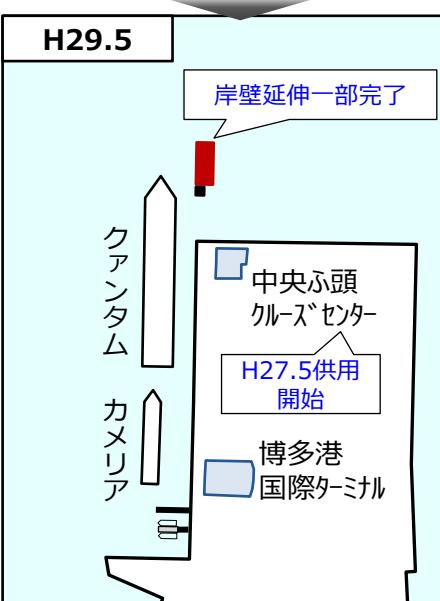
クルーズ船の大型化や寄港回数の増加に対応するため、岸壁や旅客ターミナル等の整備に段階的に取り組んでおり、博多港は我が国を代表するクルーズ拠点となっている。

● H23 係船杭整備

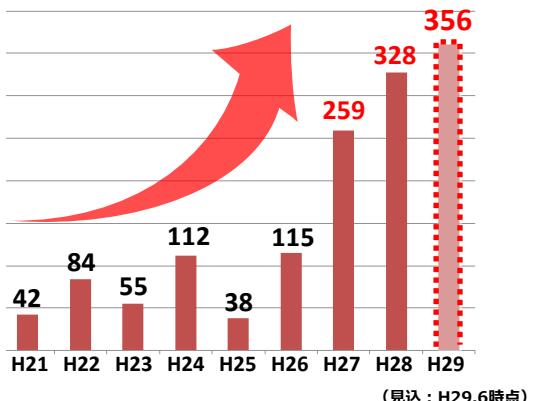
↳ H24.6 ボイジャー・オブ・ザ・シーズ **日本初寄港**

● H27.5 中央ふ頭クルーズセンター供用開始

↳ H27,28 クルーズ船寄港回数 **2年連続日本一**

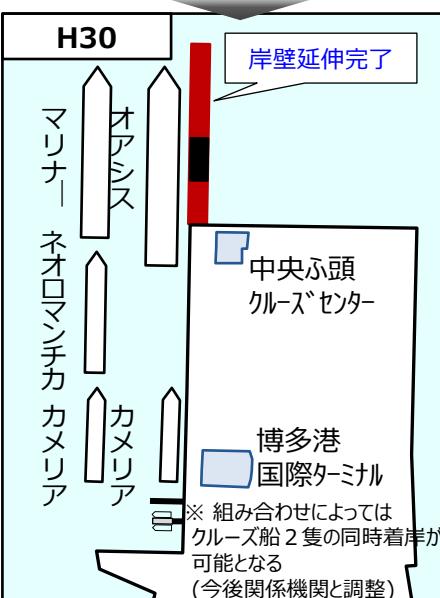


博多港への寄港回数（外国船社・日本船社合計）



H28.3 港湾計画改訂

中央ふ頭西側において、大型クルーズ船の2隻同時着岸や世界最大級のクルーズ船を受け入れるため、-12m岸壁（450m）等を計画。



● H29.3 交通広場や歩行者シェルター、可動式通路などが供用開始

● H29 岸壁延伸一部完了

↳ H29.5 中央ふ頭で**アジア最大級**クルーズ船 クァンタム・オブ・ザ・シーズなどを**受入開始**

● H30 岸壁延伸完了（予定）

↳ **世界最大級**クルーズ船 オアシス・オブ・ザ・シーズが**受入可能に**

クルーズセンター周辺の状況

整備前 (H24.6)



現状 (H29.5)



2.クルーズを取り巻く状況

クルーズ船社の動向

○ 東アジアのクルーズ市場は、今後も堅調に推移すると見込んでおり、大型船や新造船の配船に加え、新たな船社が参入。

国の動向

- 訪日クルーズ旅客数の目標を2020年500万人に設定。
(「明日の日本を支える観光ビジョン」H28.3.30)
- 国際クルーズ旅客受入機能高度化事業など目標達成に向けた様々な施策を展開。

博多港の強み

①地理的優位性

上海港や天津港などから発着する4～5泊のショートクルーズに絶好のポジション。

②博多港発着クルーズの増加

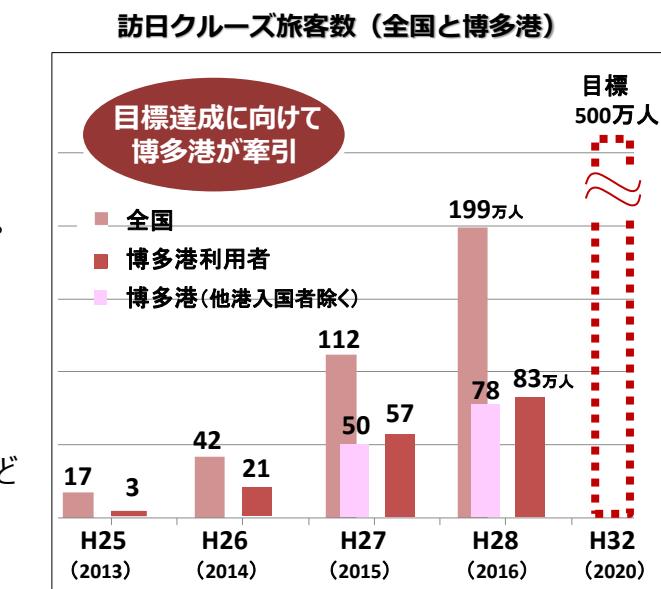
平成28年から外国籍船による日本海を周遊する本格的な博多港発着クルーズが開始。

※博多港発着クルーズ

平成28年:24回 ⇒ 平成29年:43回(見込み)
(うち外国籍船 14回⇒32回)

③世界最大級クルーズ船の寄港打診

博多港を寄港地としてクルーズ船社は重視。



博多港の地理的優位性



超大型クルーズ船の2隻同時着岸を念頭においた**クルーズ受入機能強化の検討が必要**。

クルーズ受入機能の強化について

3.課題

クルーズ船の大型化の進展や、中央ふ頭における2隻同時着岸により、
クルーズ旅客数がさらに増加することから

- (1) C I Q審査時間が長時間化
- (2) クルーズ客用観光バス待機場の不足

※ C I Qとは：Cは税関(Customs),
Iは出入国管理(Immigration),
Qは検疫(Quarantine)の略

が懸念される。

(博多港におけるターミナルの現状)

中央ふ頭クルーズセンター		博多港国際ターミナル	
概要	クルーズ専用のターミナル施設	釜山との国際定期航路に対応	
規模（延面積）	2,852m ²	15,640m ²	
出入国審査ブース	20ブース	出国 6ブース 入国 8ブース	
バス待機場	140台	14台	
備考	インバウンド約4,000人 アウトバウンド約2,000人に対応	ニューかめりあ、ビートル、コビー	

今後クルーズの受入に必要となる機能

- (1) 出入国審査ブース数 42ブース
- (2) クルーズ客用観光バス待機場 280台

※ 現状より22ブース不足
※ 現状より140台不足

4.クルーズ受入機能強化の検討における前提条件

土地利用の基本方針

(H28.3策定 ウォーターフロント地区再整備構想)

「クルーズ」、「MICE」、「賑わい」が融合した一体的なまちづくりの実現

○ウォーターフロント地区再整備構想において、「クルーズ」、「MICE」、「賑わい」機能の強化を目指し、中央ふ頭の西側を人流複合ゾーン、東側を物流複合ゾーンとしている。

■中央ふ頭西側 人流複合ゾーン

クルーズ船受入環境を強化するとともに、国内外の多くの人が集い楽しむ空間づくりに取組むゾーン

■中央ふ頭東側 物流複合ゾーン

物流機能と共に存を図りつつ、将来の港湾（人流）需要等へ対応できるよう取組むゾーン



ウォーターフロント地区再整備の進め方

(H28.10 第4委員協議会報告資料より抜粋)

- 「クルーズ」、「MICE」、「賑わい」が融合した一体的なまちづくりを目指し、再整備に向けて事業スキームなどの検討に取り組んでいる。
- クルーズ船の大型化の進展や寄港回数の増加に対応するため、中央ふ頭西側の岸壁延伸等に取り組んでおり、これに対応したクルーズ受入機能強化の検討を行っている。

第1ステージ

今後10年間で、MICE・ゲートウェイ機能の強化とあわせ、賑わい等を創出

概ね
10年

①先行施設

【世界水泳（H33）までに開業を目指す施設】

- ・第2期展示場、立体駐車場

②中央ふ頭西側・基部+博多ふ頭

【MICE・クルーズ需要・賑わい創出への対応】

- ・MICE・ターミナル・ホテル・商業施設等が一体となったまちづくりを検討

第2ステージ

クルーズ・MICEの需要動向や埋立時期等を踏まえ事業化

概ね
20年



5.クルーズ受入機能強化の方向性

(1) ターミナル機能強化

今後、ウォーターフロント地区再整備構想を踏まえ、税関や入国管理局等関係機関とも協議しながら、既存施設の活用・新設も含めターミナル機能強化に向け検討する。(次頁参照)

(2) クルーズ客用観光バス待機場の機能強化

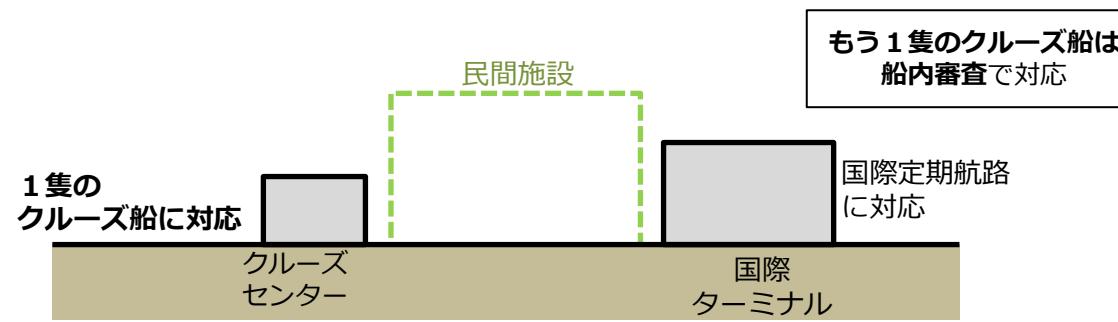
今後、必要となるバス待機場の確保に向け検討する。
検討にあたっては、ウォーターフロント関係局とも連携し、地区全体の交通対策の観点から、MICE・賑わい施設用のバス待機場の確保についても検討する。

クルーズ受入機能の強化について

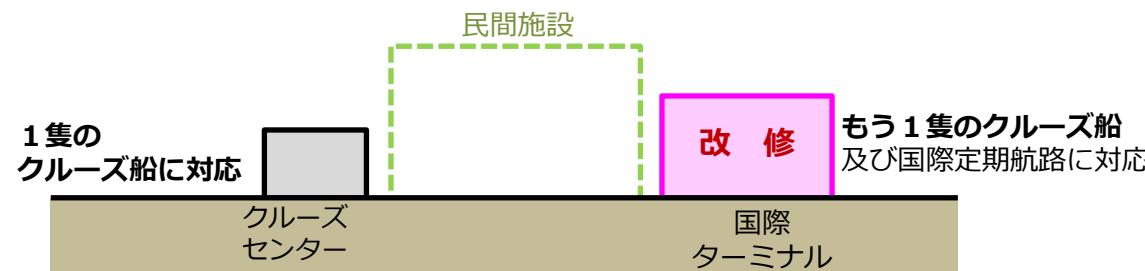
ターミナル機能強化の手法（検討イメージ）

※ 審査：出入国審査

【案1】1隻はクルーズセンターで審査、もう1隻は「船内審査」で対応



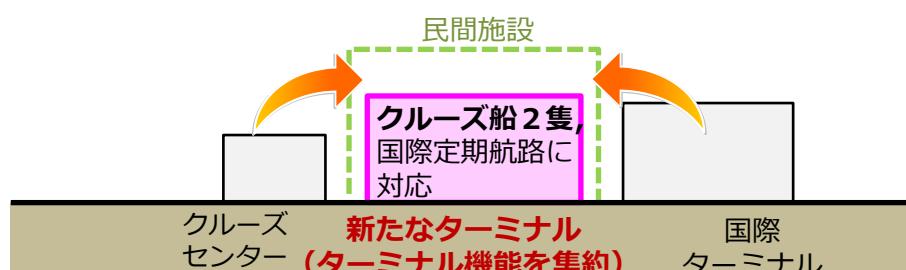
【案2】1隻はクルーズセンターで審査、もう1隻は博多港国際ターミナルをクルーズ船にも対応できるよう「改修」し、審査



【案3】1隻はクルーズセンターで審査、もう1隻はターミナルを「新たに整備」し、審査



【案4】新たなターミナルを整備することで、ターミナル機能を「集約」し、審査



※ 民間ノウハウの活用や財政負担の軽減等を図るため、PFI方式や運営権方式の導入も含め検討する。

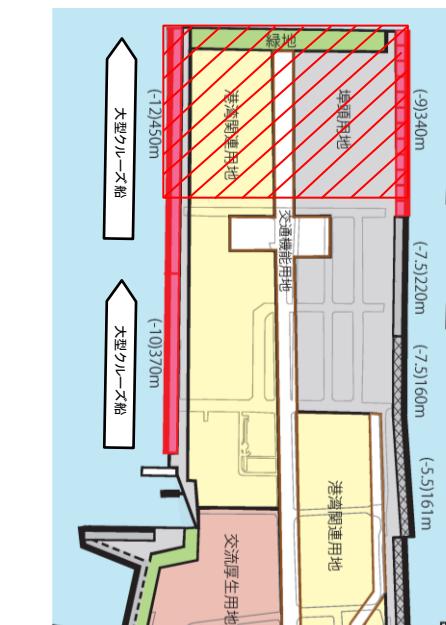
6.ウォーターフロント地区再整備における今後の進め方

クルーズ受入機能の強化について、今後関係局と連携し、施設計画や事業手法等について検討を進めていく。

■ 今後のスケジュール（予定）

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度～
中央ふ頭 西側・基部 (第1ステージ)	★第4委員 協議会報告 10月 ・再整備の進め方 ・事業手法イメージ ・交通対策等	6月（今回） ・クルーズ受入機能 の強化について ・クルーズ受入環境 整備の概要 ・事業手法の検討 ・公募条件の整理など	公募～契約 手続き	設計・工事	段階的に各施設を整備 整備スケジュール等は、 今後、検討		

参考：港湾計画（中央ふ頭）



博多港港湾計画（H28.3改訂）

目標年次 : 平成30年代後半
目標寄港回数 : 400回/年(外航クルーズ)

凡 例

- 埠頭用地
- 港灣閔連用地
- 交流厚生用地
- 交通機能用地
- 綠地

(参考資料) 博多港へ寄港する主なクルーズ船

今までに寄港実績があるクルーズ船

クアンタム・オブ・ザ・シーズ

船社	ロイヤルカリビアン・インターナショナル(米)
全長	347 m
全幅	41.4 m
総トン数	168,666 トン
喫水	8.82 m
総乗客定員	4,905 人
総乗員数	1,500 人



同型船として
オベーション・オブ・ザ・シーズ

ボイジャー・オブ・ザ・シーズ

船社	ロイヤルカリビアン・インターナショナル(米)
全長	311 m
全幅	38.6 m
総トン数	137,276 トン
喫水	8.80 m
総乗客定員	3,840 人
総乗員数	1,176 人



同型船として
マリナー・オブ・ザ・シーズ

コスタ・ネオロマンチカ

船社	コスタ・クルーズ(伊)
全長	221 m
全幅	30.8 m
総トン数	56,769 トン
喫水	7.60 m
総乗客定員	1,800 人
総乗員数	622 人



平成29年
博多港発着クルーズ32回(見込み)

平成29年から寄港予定のクルーズ船

マジェスティック・プリンセス

船社	プリンセス・クルーズ(米)
全長	330 m
全幅	47.3 m
総トン数	143,700 トン
喫水	8.55 m
総乗客定員	4,600 人 ※
総乗員数	1,346 人 ※



平成29年7月寄港予定

ノルウェージャン・ジョイ

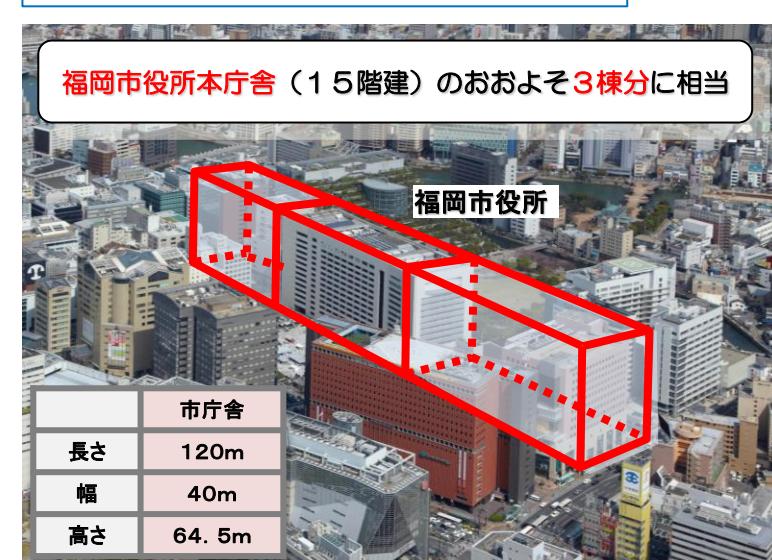
船社	ノルウェージャン・クルーズライン(米)
全長	333 m
全幅	41.4 m
総トン数	167,725 トン
喫水	8.70 m
総乗客定員	4,992 人
総乗員数	1,706 人 ※



平成29年7月寄港予定

※予定(船社聞き取りによる)

参考: クアンタム・オブ・ザ・シーズの大きさ



平成30年寄港予定のクルーズ船

MSCスプレンディダ

船社	MSCクルーズ(伊)
全長	333 m
全幅	37.9 m
総トン数	137,936 トン
喫水	8.68 m
総乗客定員	4,363 人
総乗員数	1,370 人



MSCクルーズHPより引用

世界最大級のクルーズ船

オアシス・オブ・ザ・シーズ

船社	ロイヤルカリビアン・インターナショナル(米)
全長	361 m
全幅	47.0 m
総トン数	225,282 トン
喫水	9.30 m
総乗客定員	6,360 人
総乗員数	2,394 人



近畿日本ツーリストHPより引用

